

# 平成 26 年 度 山形市社会福祉事業団受託施設等 事業報告書

## 1 事 務 局

### (1) 理事会の開催

- ① 第153回理事会（5月27日）……山形商工会議所会館  
（審議事項）
  - ・平成25年度事業報告について
  - ・平成25年度一般会計決算及び特別会計決算の認定について
  - ・平成26年度一般会計補正予算について
  - ・第三者委員の選任について
  - ・評議員の選任について
- ② 第154回理事会（6月18日）……持ち回り理事会  
（審議事項）
  - ・施設長の任免について
- ③ 第155回理事会（11月26日）……山形商工会議所会館  
（審議事項）
  - ・評議員の選任について
- ④ 第156回理事会（11月26日）……山形商工会議所会館  
（審議事項）
  - ・平成26年度一般会計補正予算及び特別会計補正予算について
- ⑤ 第157回理事会（3月26日）……山形グランドホテル  
（審議事項）
  - ・山形紛争調整委員会のあっせんに係る解決金の支払いについて
  - ・平成26年度一般会計補正予算について
  - ・経理規程の全部改正について
  - ・こまくさ学園運営規程等の一部を改正する規程について
  - ・指定介護老人福祉施設菅沢荘運営規程等の一部を改正する規程について
  - ・平成27年度事業計画について
  - ・平成27年度資金収支予算について
  - ・施設長の任免について

### (2) 役員の異動について

就任 鞠子 克己 平成26年4月1日

### (3) 評議員会の開催

- ① 第63回評議員会（5月27日）……山形商工会議所会館

(審議事項)

- 平成25年度事業報告について
- 平成25年度一般会計決算及び特別会計決算の認定について
- 平成26年度一般会計補正予算について
- 第三者委員の選任について

② 第64回評議員会（11月26日）……山形商工会議所会館

(審議事項)

- 平成26年度一般会計補正予算及び特別会計補正予算について

③ 第65回評議員会（3月26日）……山形グランドホテル

(審議事項)

- 山形紛争調整委員会のあっせんに係る解決金の支払いについて
- 平成26年度一般会計補正予算について
- 経理規程の全部改正について
- こまくさ学園運営規程等の一部を改正する規程について
- 指定介護老人福祉施設菅沢荘運営規程等の一部を改正する規程について
- 平成27年度事業計画について
- 平成27年度資金収支予算について

(4) 評議員の異動について

就任 向出 耕次 平成26年6月1日  
就任 亀谷千代子 平成26年11月26日  
就任 栗原 浩一 平成26年11月26日  
就任 田代 久男 平成26年11月26日

退任 高橋 和平 平成26年5月31日  
退任 伊藤 博夫 平成26年5月31日  
退任 白石 敏 平成26年6月4日  
退任 服部 秀子 平成26年6月19日  
退任 加藤 雄一 平成27年3月31日

(5) 職員の採用について

- ① 平成26年4月1日付で指導員・相談員1名を採用した。
- ② 平成26年9月20日に欠員補充等に伴う職員採用試験を実施し、下記のとおり内定した。

職 種 名	応募者数	受験者数	合格者	補欠合格者
指導員・相談員	11名	10名	1名	2名
介 護 職	8名	8名	5名	0名

※指導員・相談員の合格者1名が採用を辞退したため、補欠合格者1名を繰り上げ合格とした。

(6) 情報公開について

なし

(7) 苦情解決について

① 第三者委員会の開催

- 事業団本部開催 1回

② 第三者委員の異動について

- 就任 庄司 剛 平成26年6月1日
- 退任 三瓶 賢也 平成26年5月31日

(8) 障がい者の雇用促進について

まんさくの丘，菅沢荘，あたご荘及び銅町デイサービスセンターにおいて障がい者4名を雇用し，障がい者の雇用促進に努めた。

(9) 事業団ホームページの運営について

事業団ホームページの運営を行い，事業団及び運営施設の紹介，イベント情報，採用情報及び運営状況の発信など情報の公開に努めた。

## 2 土地・建物の状況

### (1) まんさくの丘

• 土地 19,174.52㎡

所 在		地 番	地 目	地 積	
大 字	小 字			公 簿 ㎡	実 測 ㎡
蔵王半郷	寺 山	1,366~2	宅 地	11,533.88	16,644.62
蔵王半郷	寺 山	910	宅 地	178.51	178.51
蔵王半郷	寺 山	927~3	宅 地	120.56	120.56
蔵王半郷	寺 山	1,366~14	宅 地	214.87	214.87
蔵王半郷	寺 山	1,366~15	宅 地	1,024.39	1,024.39
蔵王半郷	寺 山	1,409~3	宅 地	109.32	109.32
蔵王半郷	寺 山	1,409~4	宅 地	238.81	238.81
蔵王半郷	寺 山	1,674~2	原 野	163.00	163.04
蔵王半郷	寺 山	1,597~2	畑	246.00	246.96
蔵王半郷	寺 山	1,601~3	畑	233.00	233.44
合 計				14,062.34	19,174.52

• 建 物 2,757.24㎡

1	管 理 棟	696.85㎡
2	こまくさ学 園	544.20
3	恵 光 園	481.95
4	蔵王通 勤 寮	842.34
5	車 庫	100.00
6	車 庫	34.78
7	倉 庫	33.12
8	駐 輪 場	24.00
合 計		2,757.24

## (2) 山形学園

• 土地 21,687.39㎡ (ただし、蔵王上野字南坂924より2,190.00㎡を除く)

所 在		地 番	地 目	地 積	
大 字	小 字			公 簿 ㎡	実 測 ㎡
蔵王上野	南 坂	924	宅 地	10,845.78	15,265.32
蔵王上野	南 坂	2,104	宅 地	2,776.82	3,635.51
蔵王上野	南 坂	914~3	原 野	192.68	206.17
上 野	南 坂	912~2	公衆用道路	249.00	249.38
上 野	南 坂	912~3	公衆用道路	26.00	26.02
上 野	南 坂	927~4	公衆用道路	657.00	657.64
上 野	南 坂	998~4	雑 種 地	58.00	58.08
上 野	南 坂	998~5	公衆用道路	385.00	385.39
上 野	南 坂	1,012~4	雑 種 地	339.00	339.84
上 野	南 坂	1,012~5	公衆用道路	520.00	520.36
上 野	南 坂	2,683~6	雑 種 地	91.00	91.99
上 野	南 坂	2,683~7	公衆用道路	251.00	251.69
合 計				16,391.28	21,687.39

• 建 物 1,702.18㎡

1	山 形 学 園	1,293.52㎡
2	体 育 館	319.25
3	渡 り 廊 下	37.97
4	倉 庫	38.00
5	自 転 車 置 場	13.44
合 計		1,702.18

## (3) 特別養護老人ホーム菅沢荘

• 土地 30,138.08㎡

所 在		地 番	地 目	地 積	
大 字	小 字			公 簿 ㎡	実 測 ㎡
菅 沢		46	宅 地	30,138.08	30,138.08
合 計				30,138.08	30,138.08

• 建 物 5,123.49㎡

1	菅 沢 荘	4,987.33㎡
2	車 庫	122.59
3	バ イ ク 置 場	13.57
合 計		5,123.49

## (4) 養護老人ホームあたご荘

• 土 地 12,779.48㎡ (ただし、360.325㎡を除く)

所 在		地 番	地 目	地 積	
大 字	小 字			公 簿 ㎡	実 測 ㎡
大字岩波	字鬼越	8	宅 地	856.00	966.21
大字岩波	字鬼越	8-1	宅 地	852.89	911.15
大字岩波	字鬼越	575-3	宅 地	188.42	236.72
大字岩波	字鬼越	17	宅 地	1,246.28	1,268.47
小 立	四丁目	5	宅 地	790.08	846.68
大字岩波	字鬼越	29-3	宅 地	168.00	168.00
大字岩波	字鬼越	4-1	宅 地	651.23	712.86
大字岩波	字鬼越	446-1	宅 地	1,018.79	1,205.40
大字岩波	字鬼越	447-1	宅 地	436.38	564.38
大字岩波	字鬼越	7-2	宅 地	610.86	642.13
大字岩波	字鬼越	7-1	宅 地	377.56	423.00
大字岩波	字鬼越	14-2	宅 地	491.00	491.36
大字岩波	字鬼越	18-3	宅 地	1,246.12	1,246.66
大字岩波	字鬼越	29-4	宅 地	186.55	186.55
大字岩波	字鬼越	30-2	宅 地	33.27	33.27
大字岩波	字鬼越	3-1	宅 地	3,728.20	1,617.41
大字岩波	字鬼越	4-2	宅 地	307.43	133.37
大字岩波	字鬼越	14-3	宅 地	11.13	11.13
大字岩波	字鬼越	16-1	宅 地	634.67	586.58
大字岩波	字鬼越	16-2	宅 地	102.13	102.13
大字岩波	字鬼越	16-5	宅 地	26.58	26.58
大字岩波	字鬼越	17-1	宅 地	61.25	61.25
大字岩波	字鬼越	18-6	宅 地	4.53	4.53
大字岩波	字鬼越	18-7	宅 地	6.63	6.63
大字岩波	字鬼越	446-4	宅 地	112.94	112.94
大字岩波	字鬼越	446-5	宅 地	23.55	23.55
大字岩波	字鬼越	3-9	宅 地	141.66	93.81
大字岩波	字鬼越	4-3	宅 地	143.03	96.73
合 計				14,457.16	12,779.48

• 建 物 4,168.15㎡

1	老 人 ホ ー ム	4,130.60㎡
2	休 憩 所	13.25
3	共 同 作 業 所	13.50
4	倉 庫 ・ 物 置	10.80
合 計		4,168.15

## (5) 山形市銅町デイサービスセンター

• 土 地 899.4㎡

所 在		地 番	地 目	地 積	
大 字	小 字			公 簿 ㎡	実 測 ㎡
銅 町	二丁目	19-5	宅 地	7,066.51	899.4
合 計				7,066.51	899.4

• 建 物 749.81㎡

1	デ イ サ ー ビ ス セ ン タ ー	749.81㎡
合 計		749.81

### 3 受託施設等の運営について

#### I まんさくの丘

平成25年4月「障害者総合支援法」が施行、平成26年からは障害区分の創設、重度訪問介護の対象拡大、ケアホームのグループホームへの一元化などが実施された。また、国において平成25年6月に「障害者差別解消法」の公布、平成26年1月に「障害者権利条約」の批准等、障がい者に関する新たな施策の進展が見られた。

こうした障がい者福祉を取り巻く大きな変化の中で、それぞれの事業の特性を活かしながら総合福祉施設として、社会的な役割を果たせるよう各施設の連携を図りながら運営に努めた。

##### ① 総合施設の優位性を生かす取組み

- まんさくの丘調整会議を毎月2回実施し、それぞれの事業の有機的な連携と調整を図り、効果的な事業の運営に努めた。
- 職員全体で、研修・給食・地域福祉・防災・環境整備・倫理・衛生の7つの委員会を組織して各委員会が諸活動に取り組み、利用者への福祉サービスの向上と施設の運営の活性化を図った。
- 「まんさくの丘保護者会」と連携し、各種行事による地域との交流や施設の環境整備等を実施した。

##### ② 災害防止対策

- 安心かつ安全な施設をめざし、火災や自然災害に備えて、まんさくの丘全体として総合防災訓練を年2回、避難訓練を毎月実施した。
- 施設内の事故を防止するため、毎月、安全点検を行い必要に応じて対策を講じた。
- 通所・通勤途上の事故を防止するため、交通安全指導及び安全対策の充実を図った。
- 行事等による施設内外での事故や災害の発生に備え、損害保険に加入した。
- インフルエンザ等の集団発生に対して、施設間で連携し予防に努めた。

##### ③ 地域社会との交流

- 地域社会との交流を深め、理解と協力を得るため、「地域福祉懇談会」や「まんさくの丘まつり」を開催し、親しみのある開かれた施設づくりに努めるとともに、町内会が主催する「蔵王地区まつり」に参加し、地域との交流を図った。

#### (1) 児童発達支援センター こまくさ学園

小集団の中で一人ひとりの発達に応じた丁寧な療育を基本に、情緒の安定、身辺の自立、運動発達、コミュニケーション手段の獲得、集団適応などの成長発達を促し、幼児期に必要な基本的なソーシャルスキルを一人ひとりが可能な限り獲得できるよう支援に努めた。

さらに保護者に対して利用の「満足度」「意見・要望」等のアンケート調査を年2回実施し、その都度改善を図りながら施設における福祉サービスの質の向上に努めた。

また、地域療育の拠点的な役割を果たすため、相談支援の充実を図りながら、保育所や保健センター等の施設支援や研修事業を実施し、地域支援の充実に努めた。

① 利用児の状況 (平成27年3月31日現在)

定員	平成25年度末 在籍者	年度中の増減			平成26年度末 在籍者
		入所	退所	増減	
30人	34人	17人	16人	1人	35人(男29 女6)

② 年齢構成 (平成27年3月31日現在)

在籍者	0～2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	平均年齢
35人	0人	0人	8人	14人	13人	5.1歳

③ 障がい程度区分 (平成27年3月31日現在)

在籍者	最重度	重度	中度	軽度
35人	0人	7人	22人	6人

④ 通園バスの運行状況 (平成27年3月31日現在)

区分	定員	利用者	乗降地点	走行キロ数(1日平均は平均運行距離)	
				年間	1日平均
2号車	21人補8人	17人	7ヵ所	18,594km	69.1km

⑤ 療育内容

○療育全般

- ・遊びや運動を通して、職員と子どもとの間に信頼関係を築きながら、子どもの心の動きを理解するよう努め、その気持ちを尊重しながら、社会性や言語の獲得、基礎体力づくり、基本的な対人関係の確立など幼児期の発達に必要な療育を行った。

○生活習慣の自立

- ・衣服の着脱・食事・排泄など生活習慣の自立に向けての療育を行った。

⑥ 健康衛生管理

- ・毎月身体測定(身長・体重)を実施するとともに、嘱託医との連携を図りながら健康管理に努め、各科健診(内科、眼科、耳鼻科、歯科)を年2回実施した。また、歯科衛生士による歯磨き指導やフッ素塗布を実施した。

⑦ 交流保育

- ・近隣の幼稚園との積極的な交流保育を通して、互いの心の交流や生活体験の促進に努めた。

⑧ クラス別活動

- ・個々のクラスにおいて、毎月の活動計画に基づき少集団での課題活動を行った。

⑨ 行事

- ・季節に応じた催しを経験することにより、自然や季節を体感したり、様々な社会体験により、適応力や協調性を養うため、次の行事を実施した。

月	行事内容
4月	入園式、お花見
5月	社会見学(山形県立博物館)、乗馬体験、ドッグセラピー
6月	合宿(1泊2日)
7月	親子さくらんぼ狩り、七夕、バスハイク(マリニピア松島水族館)

8月	夏のつどい
9月	遠足（山寺），まんさくの丘まつり
10月	親子レクリエーション，乗馬体験，ドッグセラピー
11月	給食センター見学・試食，交通安全教室
12月	クリスマス会
1月	だんご木刺し，もちつきお楽しみ会
2月	節分あそび
3月	おひなまつり，卒園式

⑩ 給食

- 給食委員会を毎月実施し，献立内容と食事摂取状況などを把握するとともに，年間計画に基づいて季節感のある給食，変化のある給食の実施に努めた。

⑪ 保護者支援

- 保護者と関わる中で，悩みや問題を少しでも解決していけるよう，日々の療育相談，連絡帳活用のほか，以下の支援を行った。
- 家庭訪問（17件）                      ・個人面談（各保護者年3回）      ・研修会（年6回）
- 保護者茶話会（年6回）              ・保護者懇親会（年2回）              ・自由参観（年7回）
- 療育参観（各クラス年2回）・療育説明会（年1回）

⑫ 就学・就園

- 保護者の意向や子どもの発達段階に応じて，教育委員会，小学校，特別支援学校，幼稚園などの関係機関と密接に連絡を取りながら適切な指導・支援を行った。

区分	名 称	人数	名 称	人数
就学	村山特別支援学校本校	3名	山形市立第六小学校	1名
	村山特別支援学校山形校	3名	山形市立山形南小学校	1名
	山形大学附属特別支援学校	1名	山形市立桜田小学校	1名
	山形市立第二小学校	1名	山形市立みはらしの丘小学校	1名
	寒河江市立西根小学校	1名		
			合 計	13名

⑬ 卒園児支援

- 卒園児を対象に，交流・余暇活動の場として「夏のつどい」を実施した。
- 必要に応じて小学校との連絡会を実施した。

⑭ 災害防止

- 非常災害に備え，避難訓練10回，総合防災訓練2回及び職員の救命救急訓練を実施した。また，園内活動や園外行事などの実施にあたっては，無理のない内容・日程に配慮し計画を立て実施した。

⑮ 苦情解決

- 相談，要望などはあったが，苦情として受け付けたものはなかった。

⑩ 職員研修

ア 職場内研修

- 日時 平成26年7月16日（水）15：20～17：00  
内容 「救命救急法・AED講習」（成人向け）  
講師 日本赤十字社山形県支部
- 日時 平成26年7月23日（水）15：20～17：00  
内容 「救命救急法・AED講習」（子ども向け）  
講師 日本赤十字社山形県支部
- 日時 平成26年9月30日（火）15：30～17：00  
演題 「発達検査・知能検査を活かす」  
講師 山形県立総合療育訓練センター 判定員 藤田 陽子 氏

イ 職場外研修

- 山形県知的障害者福祉協会支援力向上研修会 6月19日～20日 1名
- 全国知的障害福祉関係職員研究大会青森大会 9月3日～4日 1名
- 全国児童発達支援協議会施設管理者研修会 2月20日～21日 1名
- その他 13件 33名

⑪ 実習生等の受け入れ

- 保育実習 3名
- 在宅看護論実習 12名
- 介護等体験 2名
- 学外演習 24名
- 体験実習 2名
- キャリア・スタート・ウィーク 2名
- 社会福祉実習 1名

⑫ 研修事業

ア 「ナイトセミナー」シリーズ専門講座（年3回）

対象者：保育所、幼稚園、放課後児童クラブ、療育機関、行政機関等の関係者

<p>日 時：第1回 平成26年10月10日（金）18：30～20：00 講 師：山形県立総合療育訓練センター 小児科 伊東 愛子 氏 テーマ：「症例から学ぶ～就学前の支援について～」 受講者：77名</p>
<p>日 時：第2回 平成26年11月14日（金）18：30～20：05 講 師：山形県立保健医療大学保健医療学部作業療法学科 森 直樹 氏 テーマ：「就学前に気づいてあげたい発達障害児のサイン」 受講者：79名</p>
<p>日 時：第3回 平成26年12月9日（火）18：30～20：00 講 師：臨床心理士 加藤 玲子 氏 テーマ：「気になる子への支援や対応・親への対応」 受講者：75名</p>

⑬ 相談支援

ア 巡回相談

- 幼児発達相談 年13回

## イ 外来相談

臨床心理士による行動観察、助言、相談を行った。

○年24回 延べ56件

## ウ その他の相談支援

電話や来所での相談援助のほか、毎月第2日曜日に、霞城セントラルの山形市保健センターで相談室を開設。必要に応じて、関係機関との調整、ケース検討を実施した。

## (2) 児童発達支援事業 ひよこ教室

発達に心配のある幼児を持つ保護者のニーズに応えるため、母子通園での小集団療育のほか、単独での小集団療育コースを定期的実施し、発達段階に応じたきめ細やかな療育を行った。

### ① 利用状況

- ・在籍児 41名（対前年比－8名）
- ・延べ利用者数 1,221名（対前年比＋3名）
- ・平均年齢 4.1歳
- ・開園日数 248日
- ・1日利用平均 4.92人
- ・見学 129人

### ② 療育内容

- ・親子遊び、個別療育及び小集団療育を通じて、乳幼児の発達段階に必要な設定遊びや行事を実施した。
- ・〈設定療育〉ひよこ体操、ハイハイ運動、はしごくぐり、散歩、ひもとおし、シール貼り、紙遊び、洗濯ばさみ遊び等
- ・臨床心理士による外来相談を実施した。
- ・保護者への相談支援を必要に応じて随時実施した。

## (3) 放課後等デイサービス 風の子

小学生を対象に放課後や夏休み等の長期休暇中に療育や余暇の機会を提供し、心身両面のバランスのとれた発達を援助した。

### ① 利用状況

- ・在籍児 45名（対前年比－2名）
- ・延べ利用児数 1,887名（対前年比－117名）
- ・平均年齢 9.9歳
- ・開園日数 239日
- ・1日利用平均 7.89人

### ② 療育内容

- ・放課後や長期休暇中の療育の場として、幼児期に積み残した社会性、コミュニケーション及び自主性の成長を支援した。

- ・〈設定療育〉全身運動（サーキット・バランスボール等）、日常生活訓練、指先運動、クッキング、散歩、宿題等
- ・保護者への相談支援を必要に応じて随時実施した。
- ・随時学校や関係療育機関との連携を図った。

#### (4) 保育所発達相談事業

発達気になる児童が増加していることから、市内保育所等（市立10ヵ所、民間立33ヵ所）の保育士を対象に保育方法の指導や助言を行い、保育所等における処遇の質を高めるとともに、発達に心配のある児童の早期発見・早期療育につなげることを目的として次の事業を行った。

##### ① 相談事業

- ・平成26年度巡回相談件数

区 分	箇 所 数	延 巡 回 数	延 対 応 件 数
市立保育所	9	18	65
民間立保育所	26	63	248
合 計	35	81	313

- ・平成26年度巡回相談後のフォロー件数

区 分	件 数
相 談 室	19
外 来 相 談	51
合 計	70

- ・平成26年度事例検討会

区 分	箇 所 数	延 巡 回 数	延 対 応 件 数
市立保育所	2	2	4
民間立保育所	2	2	8
合 計	4	4	12

- ・保育所発達相談事業連絡会

各保育所内の代表者に対し、発達相談事業の説明会を開催した。

平成26年5月27日（火）

##### ② 山形市行政分科会

関係各課（こども保育課、生活福祉課、健康課、学校教育課）との情報共有並びに巡回相談後のフォロー体制の確認を行った。

- ・第1回 平成26年8月21日（木）
- ・第2回 平成27年2月6日（金）

(5) 生活介護事業 恵光園

- 利用される方々が、その人らしく主体的に活動できるように、個人の適性及び嗜好に配慮しながら、様々な生活体験ができる安全な環境づくりと支援サービスの充実に努めた。

① 利用者の状況 (平成27年3月31日現在)

定員	平成25年度末 在籍者	年度中の増減			平成26年度末 在籍者
		入所	退所	増減	
40人	40人	0人	0人	0人	40人(男20 女20)

② 年齢構成 (平成27年3月31日現在)

在籍者	10代	20代	30代	40代	50代	60代	平均年齢
40人	0人	9人	4人	15人	9人	3人	41歳9ヵ月

③ 障がい程度区分 (平成27年3月31日現在)

在籍者	1	2	3	4	5	6
40人	0人	2人	20人	6人	8人	4人

④ 通園バス運行状況 (平成27年3月31日現在)

区分	定員	利用者	乗降地点	走行キロ数(1日平均は平均運行距離)	
				年間	1日平均
1号車	33人補9人	28人	22ヵ所	22,587km	84km
3号車	8人	8人	7ヵ所	22,815km	85km

⑤ 日常活動

- 基本的な生活習慣の確立と社会生活に必要な生活力の向上を図るため、継続的に活動支援を行った。

⑥ 班別活動

- 利用者の障がい特性及び適性等を考慮し、作業班と生活班の2つのグループに分けて活動した。
- 活動内容

	項目	人員	主な活動内容
作業班	作業活動(箱づくり)	24人	• 作業トレーニングとして菓子箱(紙箱)折りの作業を市内の業者から受注して行った。時期によって多少の差はあったが年間を通して継続的に作業を行うことができた。 (年間生産数 54,015個)
	創作活動	22人	【陶芸】 • できるだけ多くの利用者が、それぞれの適性に合わせて、ひも作り・型作りなど様々な技法を用いて作品の制作に携われるように配慮した。完成した作品は施設の祭り・地元の物産直売店・市内ホテルの催事場等で展示・販売を行った。 • ガス窯により、素焼きの後本焼きを行う行程で作品作りに取り組み、釉薬を工夫する等、個性的な作品作りを行った。 (年間で素焼き5回、本焼き7回を実施)
		20人	【手工芸】 • 利用者の適性に合わせて、対応できるような手工芸を取り入れ、取り組んだ。 • ビーズを糸に通して、指輪、プレスレッド、ネックレス等を製作し、施設の祭り・地元の物産直売店・市内ホテルの催事場等で展示した。

作 業 班			<p>【図画工作】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節や行事に合わせて絵描きや紙工作等を行い、自由に創作する楽しさを体感した。</li> </ul>
	生活学習レクリエーション	24人	<p>【クッキング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・季節感のあるお菓子作りを通して、食べ物を作る楽しさを体験した。(3回)</li> </ul> <p>【月・季節行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誕生会や茶話会、季節の小行事等の実施して、変化のある生活作りに取り組んだ。(誕生会10回、季節行事7回)</li> </ul> <p>【園外活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設のバス等を利用してグループで外出し、社会との交流を図り、豊かな体験を積み、生活の幅を広げた。(作業班3回、合同1回)</li> </ul> <p>【園芸】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園の畑にサツマイモやカボチャ等を植えて、植物の生育や収穫の喜びを体験した。</li> </ul> <p>【軽スポーツ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・散歩や踊り等、楽しく体を動かせる場面を多く取り入れた。</li> <li>・地域のインディアカ愛好会の指導を受け、スポーツの楽しさを体験しながら交流を図った。(9回)</li> <li>・冬季間、体操等を取り入れ運動不足の解消に努めた。</li> </ul>
	個別活動	18人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の嗜好や適性に合わせ、楽しく取り組める軽作業、指先を使うビーズ通しやパズル作り等の活動を行った。</li> <li>・施設周辺の散歩等により、体力作りや健康増進に努めた。</li> </ul>
	リハビリ体操	18人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽、レクリエーション、運動等を組み合わせて、楽しみながら体を動かし身体機能の活性化を図った。</li> </ul>
生 活	機能維持活動	3人	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身体機能の維持・向上を図るため、個人ごとに身体の状態に合わせて、必要な動きを取り入れた活動を行った。</li> </ul>
	創作活動	18人	<p>【陶芸】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・できるだけ多くの利用者が、それぞれの適性に合わせ、型作りなどの技法を用いて作品作りに携われるように配慮した。完成した作品は施設の祭り・地元の物産直売店・市内ホテルの催事場等で展示・販売を行った。</li> </ul> <p>【手工芸】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・パーラービーズでコースター等の作品を作り、施設の祭り・地元の物産直売店・市内ホテルの催事場で展示・販売を行い、一般市民との交流と理解を深めた。</li> </ul>
	生活学習レクリエーション	18人	<p>【月・季節行事】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誕生会や茶話会、季節の小行事等の実施により、変化のある生活作りに取り組んだ。(誕生会10回、季節行事7回)</li> <li>・園の畑にジャガイモやカボチャ等を植えて、植物の成長や収穫の喜びを体験した。</li> </ul> <p>【園外活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設のバスを利用して外出する小行事を行い、地域や社会とふれあいながら、季節感のある豊かな経験を積んだ。</li> </ul> <p>【クッキング】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手軽で美味しいお菓子作りを通して、食べ物を作る楽しさを体験した。(2回)</li> </ul> <p>【軽スポーツ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・希望者は、毎月1回、地域のインディアカ愛好会の指導を受け、スポーツの楽しさを体験しながら交流を図った。</li> </ul> <p>【レクリエーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・室内でできる簡単なボウリングやサッカー等のゲームを行い、楽しく身体を動かした。</li> </ul>

- ⑦ 自立訓練活動
- 利用者全員で、東根市内にある身体障害者保養所に1泊する宿泊訓練を行い、親元を離れて生活する体験を通して自立心を高めた。
- ⑧ 園外活動
- 施設全体の行事として新潟方面への社会見学旅行（親子宿泊旅行）を行い、利用者と保護者の親睦を図りながら相互理解を深めた。
- ⑨ 健康衛生管理
- 嘱託医との連携を図りながら、利用者の健康管理に努めるとともに、各科検診（内科，眼科，耳鼻科，歯科）を年2回実施した。
  - 利用者全員を対象に、施設内で山形市の総合健診（特定健診・がん検診等）と同様の集団健診を実施した。
  - 毎月1回、体重測定を行い、利用者の健康状態の把握に努めた。
  - 利用者及び関係職員の検便を実施し、健康状態の把握に努めた。
- ⑩ 給食の状況
- 利用者に好まれる内容と栄養のバランスの両立に努め、季節感のある献立等、豊かな食事の提供に努めた。
  - 給食委員会を毎月1回開催し、献立内容と利用者の食事の状況等を確認しながら提供内容の充実を図った。
  - 毎日の食事の中でアレルギー体質や糖尿病等の利用者に対して、きめ細かな対応を行うとともに、必要に応じて家庭との連携を図り、健康増進の効果を高める食事支援に取り組んだ。
- ⑪ 時間外預かり支援（レスパイト）サービスの実施
- 利用者及びその家族に対する支援として、通常の営業時間を延長して支援を行った。
 

午前の預かり時間	（8：00～8：30）	延べ利用者数	252人
平日・午後の預かり時間	（17：15～18：30）	延べ利用者数	474人
土曜・午後の預かり時間	（12：30～18：30）	延べ利用者数	55人
- ⑫ 防災及び事故防止対策
- 年2回の総合防災訓練と火災や地震を想定した毎月1回の避難訓練を実施して災害時に備えた。
  - 訓練の実施にあたっては、内容・日程等、安全性に配慮した計画を立て実施した。
  - 登降園時の安全に配慮し、家庭と連携を密にしながら事故の防止に努めた。
- ⑬ 苦情解決
- 利用者の対応に関して苦情が1件寄せられたが、誠意をもって対処し改善を図って解決した。
- ⑭ 職員の研修
- 職員の資質向上を図るため、以下の研修に参加した。
- ア 職場内研修
- 救命救急法研修 7月16日、23日 8名

イ 職場外研修

- 高次脳機能障害研修会 6月17日 1名
- 障害者福祉関係種別新任職員研修会 7月2日～3日 1名
- 権利擁護推進委員連絡会・研修会 7月22日 1名
- 知的障害者福祉協会全国職員研究大会 9月3日～4日 1名
- 県福祉協会施設長研修会 11月17日 1名
- 村山地区権利擁護セミナー 3月18日 1名

⑮ 地域社会との交流

- まんさくの丘まつり開催（9月）
- 蔵王地区まつりへの参加（11月）
- 山形市内のホテルでの展示販売（12月）
- 地域内の農産物直売店での利用者作品の展示及び販売（通年）
- 地域協力者より栽培指導等の協力を得て農作物を栽培（春～秋）

⑯ 保護者との連携

- 毎日連絡帳により相互の状況把握と理解を深めるとともに、必要に応じて家庭訪問や電話等により連携を図りながら、施設と家庭が一貫性のある継続的な支援ができるように努めた。

⑰ 実習生の受け入れ

- 保育実習生（短大生） 5人      • 施設実習（看護学生） 14人
- 就業・現場体験（特別支援学校生徒） 4人

(6) 日中短期入所事業所 恵光園

在宅で生活する障がい者を、日中の一定時間にお預かりし、利用者を支援するとともに、家族の負担が軽減できるよう支援した。

① 月別実施状況 (平成27年3月31日現在)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施人数 (延べ人数)	22	26	25	27	24	24	27	26	21	25	26	25	298人

② 時間別実施状況 (平成27年3月31日現在)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
4時間未満	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	1	3人
4～8時間	19	23	25	24	24	21	26	26	20	22	25	22	277人
8時間以上	3	3	0	3	0	2	1	0	1	3	0	2	18人

(7) 宿泊型自立訓練事業 蔵王通勤寮

利用者の就労・生活の安定と地域生活移行を推進するため、個別支援計画に基づき、事業所、関係機関等と連携して支援を行った。

① 利用者の状況 (平成27年3月31日現在)

定員	平成25年度末 在籍者	年度中の増減			平成26年度末 在籍者
		入所	退所	増減	
20人	20人	1人	3人	△2人	18人(男14 女4)

② 年齢構成 (平成27年3月31日現在)

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	平均年齢
人数	0人	4人	3人	5人	6人	0人	42.72歳

③ 利用者の日中活動区分 (平成27年3月31日現在)

就労形態	一般就労	就労継続支援A型	就労継続支援B型	就労移行支援	生活介護事業所	無職	合計
人数	9人	1人	5人	0人	1人	2人	18人

④ 自立能力向上への援助

- ・ 基本的生活習慣と身辺処理能力の向上を図るための支援に努めた。
- ・ 金銭に関する自己管理能力の向上を図る支援を行った。
- ・ 利用者の自治会活動の充実を図るための支援（年間計画，生活用品購入，当番活動等）を行った。
- ・ 相談支援事業所との契約の支援を行った。

⑤ 就業指導及び職場定着への支援

- ・ 事業所との連携を強化し，職場定着を図るための訪問等を行った。

⑥ 食生活への支援

- ・ 給食委員会を毎月1回実施し，献立内容と利用者の食事摂取状況を把握するとともに，年間計画に基づき季節感のある給食の提供を行った。
- ・ 利用者の嗜好調査（アンケート等）を毎月行い，その希望を集約して実際の献立に反映させた。
- ・ 定期的に栄養士が食事の実態を確認し，必要に応じて利用者に食事指導及び助言を行った。
- ・ 食生活及び調理に関する知識と技能を高める支援を行った。

⑦ 余暇活動への支援

生活の質的な向上を図るために次の行事を通して支援を行った。

- ・ 誕生会（毎月）
- ・ 花見会（4月）
- ・ 東京への一泊の社会見学旅行（11月）
- ・ 忘年会（12月）
- ・ ボウリング大会（12月）

⑧ 健康及び衛生管理

・健康診断等の実施状況

検診内容	健康診断（一般）	健康診断（成人病）	子宮・乳がん検診
受診者数	9人	11人	0人

- ・健康診断実施の結果，精密検査や治療を要するケースについては，迅速に対処した。異常が認められた利用者に関しては再検査を行った。
- ・毎月1回の体重測定及び血圧測定を実施し，健康状態の把握に努めた。
- ・感染症や食中毒の予防のため，利用者及び関係職員の検便を実施した。（1人当たり年間6回）
- ・塩素系の空間除菌剤及び手指消毒薬を導入し感染症の拡大防止に努めた。
- ・うがい，手洗い等の徹底を呼びかけ，インフルエンザ，感染症の予防に努めた。
- ・病気等の予防，治療及び医療機関への受診等自己管理能力の向上を図るための支援に努めた。

・通院・入院の状況

（平成27年3月31日現在）

受診内容による分類	内科	精神科	てんかん	脳神経外科	脳外科	歯科	皮膚科	眼科	耳鼻科	形成外科	整形外科※	婦人科	泌尿器科	肛門科
通院治療 （うち実人数）	139 (17)	91 (11)	0 (0)	11 (1)	0 (0)	35 (6)	16 (4)	11 (5)	1 (1)	10 (1)	62 (4)	5 (1)	0 (0)	3 (1)
入院治療 （うち実人数）	0 (0)	54 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

※接骨院等を含む。

⑨ 災害防止対策

- ・避難訓練を実施した。（4回／4月，6月，8月，11月）
- ・総合防災訓練を実施した。（2回／9月，2月）
- ・防災研修を実施した。（1回／9月）
- ・まんさくの丘全体で実施されている避難訓練に参加した。（毎月1回）
- ・発電機の操作及び作動確認を行った。（毎月1回）
- ・避難訓練の実施等により防災意識及び知識，消火器使用の技能を高めるための支援を行った。

⑩ 関係機関・保護者との連携

- ・福祉事務所とのケース検討会
- ・就業・生活支援センターとの連携
- ・相談支援事業所との連携
- ・保護者会の開催（2回／4月，12月）
- ・保護者との個人面談……必要に応じて随時行った。
- ・三恩会総会の開催（1回／3月）

⑪ 苦情解決

- ・今年度は苦情は無かった。
- ・利用者にアンケート調査を実施した。（2回／10月，2月）

⑫ 職員の研修

職員の資質向上を図るため、下記の研修に参加した。

ア 職場内研修

- ・救命救急研修 (7月／3名参加)

イ 職場外研修

- ・関東地区宿泊型自立訓練事業等施設長研修 (4月／2名参加)
- ・東北地区施設長・管理者等連絡協議会及び総会 (6月／1名参加)
- ・全国知的障がい関係施設長等会議 (6月／1名参加)
- ・地域支援セミナー (9月／1名参加)
- ・全国知的障がい福祉関係職員研究大会青森大会 (9月／1名参加)
- ・全国宿泊型自立訓練等職員研究会 (12月／1名参加)

(8) 共同生活援助事業所 蔵王（グループホーム）

個別支援計画に基づき、金銭管理、居室の清掃等の生活環境の改善に関する事、事業所と連携した職場定着を図るための支援等を実施した。

一部の入居者が高齢化しており、それに伴い健康状態に問題を抱えるケースが増えてきているため、保護者、世話人と連携を密にし、個別援助を行うとともに、グループホーム退居後を見据えたその後の生活場所についても保護者、関係機関との話し合いの場を設けた。

① 入居者の状況 (平成27年3月31日現在)

グループホーム名	飯田荘	みどり荘	さくら荘	わかば荘	あすなる荘	わかくさ	合計
入居人数	4人	4人	4人	4人	4人	4人	24人

② 年齢構成 (平成27年3月31日現在)

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	平均年齢
人数	0人	1人	8人	7人	4人	3人	1人	46.33歳

③ 入居者の就労区分 (平成27年3月31日現在)

就労形態	一般就労	就労継続支援A型	就労継続支援B型	生活介護事業所	無職	合計
人数	12人	4人	6人	1人	1人	24人

④ 入居者に対する支援（延件数）

- ・社会生活上の相談及び支援（570回）
- ・余暇活動の支援（63回）
- ・職場訪問及び就労支援（121回）
- ・関係機関との連携（52回）
- ・対人関係の調整（75回）
- ・買物等の支援（50回）
- ・問題行動への対応（65回）

- ⑤ 世話人に対する指導
- ・相談及び業務指導（226回）

- ⑥ 健康及び衛生管理
- ・健康管理に関する支援（155回）
  - ・医療機関への受診支援（112回）
  - ・入居者の健康診断実施状況

検診内容	健康診断（一般）	健康診断（成人病）	子宮・乳がん検診
受診者数	9人	15人	1人

- ⑦ 地域生活関連
- ・地域生活への適応に関する支援（12回）
- ⑧ 災害防止対策
- ・蔵王通勤寮で実施した総合防災訓練に参加した。（2回／10月，2月）
  - ・グループホームごとに防災設備の説明及び避難経路の確認を行った。
- ⑨ 家族（保護者）との連携
- ・保護者会の開催（2回／4月，12月）
- ⑩ 苦情解決
- ・今年度は苦情は無かった。

(9) 相談支援事業所 まんさく

地域で生活する障がい者が、その人らしく生活するために、希望する必要な福祉サービスを利用できるよう個人ごとの相談に応じ、計画相談支援をはじめ、市町村や他の相談支援事業所等の関係機関と連携を図りながら様々な支援を行った。

① 相談件数（形態別）

形態区分	平日	時間外	休日	合計
電話	176	0	0	176件
来所	32	0	0	32件
訪問	25	0	0	25件
その他	0	0	0	0件
合計	233件	0件	0件	233件

② 相談者

区分	件数	区分	件数
本人・家族等	211	行政機関	0
民生委員	0	教育委員会	2
ケアマネジャー	0	山形市からの依頼	5
サービス提供事業所	16	その他（知人等）	0
医療機関	0	合計	234件

③ 主な相談内容

内 容	件 数	内 容	件 数	内 容	件 数
サービス利用支援	516	保育・教育支援	231	雇用・就労支援	29
障がい・病状理解支援	305	家族・人間関係支援	39	社会参加・余暇活動支援	92
健康・医療支援	200	家計・経済支援	55	権利擁護・成年後見関係	5
不安解消・情緒支援	264	生活に関する支援	225	虐待に関する支援	1
そ の 他	0			合 計	1,962件

④ 相談後の連絡調整

区 分	件 数	区 分	件 数
本人・家族等	1,299	医療機関	48
民生委員・近隣関係	1	行政機関	634
ケアマネジャー	40	その他	64
サービス提供事業所	1,116	合 計	3,202件

⑤ 申請手続き

内 容	申請・処理件数
介護給付費支給申請	71
訓練等給付費支給申請	17
地域生活支援事業申請	15
手帳申請関係	24
自立支援医療請求	0
障がい児通所給付費支給申請	189
サービス等利用計画申請（者）	69
障がい児支援利用計画申請（児）	194
福祉タクシー券・給油券	53
その他	0
合 計	632件

⑥ 障がい種別

身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	難 病	合 計
28	72	9	123	1	233人

⑦ カンファレンス等の開催件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5	4	5	6	5	5	5	5	4	6	5	6	61件

## II 児童養護施設 山形学園

平成26年度は、子ども達への支援の充実のために、以下の5点を重点的に取り組んできた。

- (1) ユニットケア体制の充実
- (2) 一人ひとりの心身の発達を支援する処遇の推進，個別ケアの充実
- (3) 家庭や関係機関と連携し，早期家庭復帰にむけての相談・助言及び家庭支援
- (4) 職員の専門性に対する意識改革と資質向上，チームケア体制構築
- (5) 里親支援の充実・子育て短期支援事業の推進，地域交流の推進

一人ひとりの生活をより豊かなものにしながら，子ども達一人ひとりと向き合い，子ども達の人間力を育むことで，自立への力の源となり，施設生活への活力となるよう支援に努めた。

### ① 入退所の状況 (平成27年3月31日現在)

定員	平成25年度末 在籍者	年度中の増減			平成26年度末 在籍者
		入所	退所	増減	
40人	37人	5人	6人	△1人	36人(男21 女15)

### ② 年齢構成 (平成27年3月31日現在)

3歳未満	幼児	小学生	中学生	高校生	その他	計	平均年齢
0人	4人	12人	14人	6人	0人	36人	13.0歳

### ③ 障がい等区分 (平成27年3月31日現在)

知的障がい児	ADHD (注意欠陥/多動性障がい)	広汎性発達障がい
12人	4人	5人

### ④ 入所理由区分 (平成27年3月31日現在)

虐待	28人	その他	5人
父母の精神疾患等	1人		
破産等の経済的理由	2人	計	36人

### ⑤ 退所児童状況 (平成26年度中)

県内進学	1人	県外進学	1人	家庭復帰	4人	施設利用	0人	措置変更	0人
------	----	------	----	------	----	------	----	------	----

### ⑥ 児童処遇

#### ア 年少児

- 基本的生活習慣の確立及び遊びを通して心身両面の育成に努めた。
- 幼稚園を活用しながら，集団生活への適応力の向上に努めた。
- 幼稚園入園前の幼児は，地域の公民館の子育てサロンや幼稚園の遊びの教室に参加し，地域との交流及び集団参加の体験を増やした。

#### イ 小学生

- 基本的生活習慣の習得に努めた。
- 余暇活動や遊びを通して，情緒の安定を図り心身両面の育成に努めた。
- 学校との日常の相互連絡や連絡会（年2回）等を通して，生活と学習の向上に努めた。

- 長期休みに子ども達の自主グループでの学習会を設け、効果が見られた。
- 居室単位の活動やグループ活動を通して、協調性や自主性の高揚に努めた。

ウ 中学生・高校生

- 部活動と学業の両立が図れるように指導に努めた。
- 進路指導に当たっては、進路目標、意識の高揚を図りながら、学校及び関係者との連携に努めた。
- 基本的な生活習慣の習得を図り、社会性・協調性及び自立意欲の向上に努めた。
- スポーツ活動等を通して、情緒の安定を図り心身両面の育成に努めた。
- 高校卒業後の進路については、自立サポート相談員を中心に学校や関係者等と連携を図りながら十分な情報提供を行い、本人の意思を尊重しながら進めた。

エ 全児童

- 個々の児童の意見が尊重される環境作りとその対応の充実に努めた。
- 調理実習やおやつ作りを定期的実施し、生活技術の習得と変化のある生活作りに努めた。
- 社会体験学習や園外活動の機会を多く設け、社会経験や常識の習得向上に努めた。
- 学習ボランティア等の協力を得ながら個別学習の充実や学習意欲の向上に努めた。
- 児童相談所や関係機関との連携を図り、処遇の向上に努めた。

⑦ 健康衛生管理

- ア 健康診断を年2回実施した。
- イ 毎日の健康観察により、疾病の早期発見と早期治療に努めた。
- ウ 児童の検便を年3回実施し、感染症の予防に努めた。
- エ 医療状況

区 分	内科	外科	皮膚科	歯科	整形外科	耳鼻科	眼科	泌尿器科	精神科	計
服薬(実人数)	95	6	63	22	31	10	38	0	15	280人
通院(延人数)	129	6	106	31	45	10	38	0	18	383人
入院(延人数)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0人
計	224	12	169	53	76	20	76	0	33	663人

⑧ 給食の状況

- ア 年齢に適した栄養の供給に努めた。
- イ 毎月1回給食委員会を開き、適切な食事内容の検討や食生活への興味や関心の普及に努めた。
- ウ 衛生的な食事環境作りに配慮し、正しい食習慣の確立に努めた。
- エ 行事食、郷土食、バイキング、会食、外食、希望献立などを実施し、楽しく変化に富んだ食生活に努めた。
- オ 週1回手作りおやつを実施し、手作りの良さを児童に伝えることに努めた。
- カ 毎月1回ユニット調理を実施し、生活技術の向上に努めた。

⑨ 行 事

生活の潤いと集団生活への適応や協調性の向上を図るために次の行事を実施した。

- 全体行事 職員歓迎会，東京ディズニーランド旅行（4グループ），海水浴（宿泊），ふれあいまつり，クリスマス会，市長とのもちつき会，スキー教室，退園生激励会，職員送別会
- 季節行事 端午の節句，七夕，だんご木刺し，雛祭り
- 園外行事 県内児童養護施設入所児童ワイワイ交流会，高校生仙台イルミネーション見学

⑩ 地域活動と社会資源の活用

ア 地域交流を深め，児童の自主性や社会適応力を高めるため次の活動を実施した。

- 山形市10kmウォーキングへの参加
- 上野地区流しそうめんまつりへの参加
- P T Aや子供育成会行事への積極的参加
- ボランティア活動（菅沢荘，あたご荘，夏祭り手伝い）

イ ボランティアや慰問等の受け入れ

• 行事の手伝い	10団体1個人	年間延べ回数	1回
• 施設内外環境整備	3団体	〃	3回
• 慰問	5団体1個人	〃	8回
• 招待	6団体2個人	〃	8回
• 学習，絵本，散髪等	2団体11個人	〃	257回

ウ 実習生の受け入れ

- 資格取得のための実習 4年大学5名，短期大学14名，専門学校3名
- 介護体験実習 4年大学8名

⑪ 家族との関係作り・調整

ア 家庭へのファミリー・ケースワークを行い，早期家庭復帰の調整に努めた。

イ 家族も一緒に参加できる行事等には参加を呼びかけ，家族との関係作りに努めた。

ウ 夏休みや冬休みなどに，家庭への一時帰省を実施した。

エ 家族等との交流のない児童には，家庭生活体験事業を実施した。（3家庭に4名の児童，延べ27日）

オ 家庭訪問（8家庭 8回実施）

⑫ 里親支援

- 里親サロン 33回 延べ122名
- 家庭訪問 4回

⑬ 職員会議・委員会等

運営会議14回，職員会議14回，給食委員会12回，ケース検討会12回，ケースカンファレンス8回，心理療法士・職員に対する専門医の助言等（心理療法スーパービジョン）10回

⑭ 職員の研修

ア 内部研修会

- 平成26年9月9日 児童相談所とのケース検討会
- 平成26年7月22日 12月1日 平成27年3月5日「CAPおとなワークショップ」

CAP庄内 齊藤 綾 氏

- 平成26年12月21日「月経学」  
山形県看護協会 山口 節子 氏
- 平成26年12月22日「いのちの学習」  
MOTHER design わだゆきこ 氏
- その他 4件

イ 外部研修会

- 東北ブロック児童養護施設研究協議会（仙台市） 6月19日～20日 3名
- 東北ブロック児童養護施設専門職研修会 10月1日～2日 3名
- 山形県児童養護施設協議会宿泊研修会 11月27日～28日 4名
- ファミリーソーシャルワーカー研修会 2月12日～13日 1名
- その他 20件 40名

⑮ 災害防止

- ア 防災計画に基づき、消火訓練、避難訓練を定期的を実施した。
- イ 自転車の安全点検を行った。
- ウ 登下校や外出時の事故防止のため、交通安全教育を実施した。
- エ 夜間召集訓練を実施した。

⑯ 心理療法の実施

- ア 実施児童数 32名
- イ 心理療法等の回数
  - 心理療法 901回
  - セカンドステップ 52回
  - サードステップ 20回 合計973回

ウ 対象児童の年齢・主訴別数

	身体的虐待	ネグレクト	心理的虐待	その他	計
3歳～学齢前	1	2	0	1	4人
小学生	3	7	1	2	13人
中学生	3	7	0	5	15人
高校生	1	3	0	3	7人
計	8	19	1	11	39人

⑰ 苦情解決の状況

- 要望や意見はあったが、その都度話し合いで解決することができた。

### こどもショートステイ事業

家庭をとりまく環境が複雑化している今日において、子育て支援事業の一環として、平成9年4月より山形市から委託を受けていたが、平成26年度については、利用実績がなかった。

### Ⅲ 高齢者総合福祉施設すげさわ

理念である「入所者・利用者，誰もが安心できる暮らしの実現」に向けて業務にあたった。  
経営的には、「すげさわ」の各事業所が介護報酬による経営の維持に努めた。

- ① 介護保険制度に対応し，次の事項に取り組んだ。
  - ・介護報酬による経営の維持
  - ・給付管理と介護報酬事務の正確化
  - ・利用者の確保
  - ・サービスの質の向上
  - ・ケアプラン・リハプラン・栄養マネジメントの適正度と実施度の向上
  - ・地域支援機能の強化
- ② 地域交流を図るため，地域の方々の協力を頂き，次の事業を実施した。
  - ・夏祭り 7月27日（日）……地元自治会・家族会との共催
  - ・敬老会 9月14日（日）
- ③ 地域貢献として次の活動を実施した。
  - ・団地内市道のごみ拾い
  - ・市有地の除草
  - ・資源回収への協力
- ④ 地域との連携を図るため，次の地区会議等への出席を行った。
  - ・地区会議への参加……本沢地区内企業・施設関係者と地区民の懇談会，文化祭，市長との新春懇談会，地域包括支援センター関係会議多数
  - ・地区内学校入学式，卒業式への参加……本沢小学校，第九中学校，山形医療技術専門学校
- ⑤ 地区自治会，近隣施設との連携
  - ・防災協力を図るため，防災訓練を実施するとともに防災懇談会を開催した。
  - ・本沢地区との福祉施設との災害時相互応援協定に基づき連絡会議に参加した。
- ⑥ 「すげさわ経営会議」の開催……総合福祉施設として，有機的な連携を図るため各部所幹部職員の同会議を月1回開催した。

職員の研修……サービス及び職員の資質の向上を図った。

  - ・その他県内外の外部研修 26回 29人

⑦ 内部研修の状況

月日	テ マ	講 師
4/11	事業計画／方針の周知	各部所担当職員
5/29	心肺蘇生・AEDの使用について	元山形市消防次長 深瀬 董 氏
6/26	接遇・倫理・常識及び法令遵守について 食中毒について	山形市立病院済生館医療相談室主幹 鈴木 励至 氏 管理栄養士 田中真理子
7/31	事故防止について（車両操作実技講習） 感染症について	リスク委員会 安全衛生委員会
8/28	身体拘束廃止について 介護方法の検討（円背の人の誤嚥を防ぐ）	主査（介護員） 伊藤 秀憲 リハビリ委員会
9/25	施設における危険予知活動について	安全衛生委員会
10/30	総合防災訓練報告・停電時の対応について 吐物処理	防災委員会 安全衛生委員会
11/27	医療に関する研修（吐物処理DVD鑑賞） （感染症予防について）	医務室
1/22	看取りについて	はーと&はーとケアセンター代表取締役 松野 まさ 氏
2/26	研究発表	各部所担当職員
3/19	認知症について 財務報告 荘長講話	研修委員会 事務 伊藤 壮一・太田安希子 荘長 大山 雅彦

⑧ 各種委員会

- 安全衛生委員会は、職員の健康診断、職員の健康障害防止（インフルエンザワクチン接種・感染症予防対策、メタボリックシンドロームに着目した特定健診及び特定保健指導）、感染症マニュアルの見直し、産業医との連携、水道水残留塩素測定等を実施した。
- 防災委員会は、各種想定防災訓練、防災マニュアルの見直し、機器取扱マニュアル、自主点検、緊急連絡網の作成、地域や近隣施設との防災訓練や防災懇談会を実施した。
- 広報委員会は、すげさわ通信（機関紙）・家族会だより・夏祭りチラシポスター、施設のパンフレット作りを行った。
- リスクマネジメント委員会は、ヒヤリハット報告書などを通して、事故の分析・リスクの回避・安全な環境の提供・介護事故防止に努めた。骨粗鬆症により、いかに丁寧な介護・優しい移乗介助をするかの徹底を図った。
- 研修委員会は、やらなければならない研修や時代が求めている研修を実施した。また、全体会で講師を招へいた場合は、アンケートを実施し今後の運営に生かした。
- 食事の委員会は、選択食の希望調査・おやつ在庫管理・行事食の企画運営・ソフト食の導入検討・食事についての提案等を行った。
- リハビリ検討委員会は、シーティング（安楽な着座姿勢）の検討を進め、同研修会を開催した結果、安全な介護・安全な食事摂取につながった。

- ・レクリエーション委員会は、レクリエーションの企画実施・その実施援助等を行い、楽しく参加できる活動の提供を心がけた。
- ・褥瘡（床ずれ）委員会は、褥瘡の予防、褥瘡のある方の対応に力を入れた。褥瘡の段階を判断するスケールも導入し、それに基づき対応することで成果を上げることができた。
- ・痰吸引委員会は、痰吸引研修を修了した介護職員が、看護職員との連携・協働のもとに痰吸引や経管栄養（医療的ケア）の取り扱いを迅速かつ安全に実施できるように取り組みを行った。また、厚生労働省より都道府県が実施する標準研修に2名の介護職員が参加し研修過程を修了した。

(1) 特別養護老人ホーム菅沢荘（介護老人福祉施設）

安心・安全な介護，事故及び各種感染症の防止に努めた。ベッドの稼働率は，目標の95%を上回り97.1%であった。いきいき弁当配食事業や自主事業のいきいきサロンは，例年どおり実施した。平成25年12月より山形市から高齢者世話付住宅(市営南山形在宅)生活援助員派遣事業を受託した。菅沢荘から南山形市営アパートG棟10戸に生活援助員を派遣し，入居者の在宅生活を支援した。

① 入所者の概況

- ・入所者数の経過 (平成27年3月31日現在)

定 員	平成25年度末 在 籍 者	年 度 中 の 移 動			平成 26 年 度 末 在 籍 者
		入 所	退 所	増 減	
80人	80人	15人	16人	△1人	79人(男17,女62名) ※うち旧措置者3名

- ・年齢構成 (平成27年3月31日現在)
- ・要介護度 (平成27年3月31日現在)

60 歳 代	3人
70歳 ～ 75歳	6人
76歳 ～ 80歳	12人
81歳 ～ 85歳	16人
86歳 ～ 90歳	20人
91歳 ～ 95歳	17人
96 歳 以 上	5人
計	79人
平均年齢	85.0歳

要 介 護 1	2人
要 介 護 2	8人
要 介 護 3	21人
要 介 護 4	27人
要 介 護 5	21人
計	79人
平均要介護度	3.7

- ・介護状況 (平成27年3月31日現在)

区分	歩 行			食 事			排 泄			入 浴			着 脱 衣			認 知 症	お む つ	車 椅子	寝 た き り	知的障がい	精神障がい
	自 立	半 介 助	全 介 助	自 立	半 介 助	全 介 助	自 立	半 介 助	全 介 助	自 立	半 介 助	全 介 助	自 立	半 介 助	全 介 助						
人数	8	12	59	34	17	28	11	17	51	4	17	58	10	13	56	72	78	63	7	4	22

② 身体拘束ゼロへの取り組み

- ・拘束は行っていない。

- ③ ケアプランに基づくサービスの提供
- ケアプランの精度を高め、かつ実施度を上げることに努めた。
  - ケアカンファレンスを随時開催し、迅速なケアプランの見直しを行った。
  - 定期的なモニタリングを実施した。
- ④ ユニットケアの実施
- 内容の充実を図った。
- ⑤ 個別的ケアの実施
- 個別的な関わりを入所者に対して適時実施した。
  - 個別的ケアでは、次の内容を実施した。  
手浴、足浴、散歩、リハビリ、整容等
- ⑥ 入所者の安全と健康の確保
- 安全衛生委員会を中心に、疥癬、MRSA、レジオネラ菌、ノロウイルス、インフルエンザ等の感染予防に努めた。
  - 安定した健康状態の保持と早目の処置対応に努めた。
  - 健康診断の実施（6月、2月）
  - インフルエンザ予防接種を入所者及び職員が接種することにより、流行を防止できた。
  - 嘱託医と協力病院との懇談会を通して連携に努めた。
  - 健康管理状況 (平成27年3月31日現在)

区 分	内 科	精神科	皮膚科	歯 科	整形外科	耳鼻科	眼 科	泌尿器科	婦人科	外 科	その他	計
服薬(実人数)	79	18	23	0	7	0	0	1	0	0	0	128人
通院(延人数)	32	5	4	4	15	5	11	13	0	46	15	150人
入院(延人数)	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18人
計	129	23	27	4	22	5	11	14	0	46	15	296人

- ⑦ 栄養管理
- 適切な栄養マネジメントを実施した。売店や生菓子販売をとおして潤いを提供した。調理活動（月1回）をとおして、作る楽しみ・それを食べる楽しみを提供した。
- 行事食（選択食64回、季節に合わせた節句料理やお祝い膳12回、鍋2回、鰻の蒲焼き実演昼食会1回、ところ天の会1回、計80回）
  - 飲酒の日の開催 毎週木曜日
  - 入所者が希望する食事の提供……1食
  - (協)山形給食センターと連携し、ソフト食の導入を実施し提供した。
  - 他職種との協働による栄養ケアマネジメントを実施し、個人別の栄養管理を行った。

・食事形態 (平成27年3月31日現在)

主食	ごはん	軟ごはん	全粥	ミキサー粥	ソフト粥	パン	計
人数	16人	12人	26人	3人	6人	0人	63人
副食	常食	キザミ食	極キザミ食	ミキサー食	計	うちソフト食併用者	
人数	24人	20人	14人	5人	63人	16人	
流動食	高栄養ゼリー	経管栄養	計				
人数	5人	11人	16人				

⑧ リハビリテーション

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
評価	38	8	9	13	2	2	0	2	1	1	2	8	86	7.2
個別	11	104	82	59	78	94	96	68	76	108	98	102	976	81.3
アクティビティ	0	0	0	0	8	18	12	5	5	3	13	6	70	5.8
福祉用具	18	1	12	8	8	15	13	3	14	0	8	3	103	8.6
その他	19	22	1	1	1	3	0	3	3	2	1	2	58	4.8
計	86	135	104	81	97	132	121	81	99	114	122	121	1,293	107.8

⑨ 生活の潤いと楽しさを演出するために、次の事業を実施した。

- ・全体行事 外食・ショッピング、夏祭り、敬老会、芋煮会、大掃除
- ・季節行事 花見、節句、七夕、花火大会、紅葉狩り、クリスマス会、正月、もちつき、節分、季節毎のコンサート
- ・活動 音楽療法（毎月2回）、朝の体操、お茶会、風船バレー、調理活動、創作活動、お花の会、書道、絵画等
- ・レクリエーションワーカーによる各種レクリエーションの実施

⑩ 処遇の安定と向上につながる次の会議と委員会を実施した。

- ・すげさわ経営会議 12回
- ・カンファレンス 196回
- ・職員全体会議 11回
- ・ユニット職員会議 12回
- ・各種委員会の開催 120回

⑪ 緊急性・透明性・公平性に留意し、入所決定会議を開催した。

- ・退所者が発生する前に次の候補者を選出するために年4回開催

⑫ 災害訓練

- ・総合防災訓練（地震避難訓練）2回
- ・防災機器取り扱い講習 1回
- ・防災設備自主点検 12回
- ・部分訓練 4回
- ・夜間想定避難訓練 1回
- ・通報召集訓練 1回

⑬ 実習生等の受け入れ

- ・施設実習 25人
- ・介護初任者研修 37人
- 計 62人

⑭ ボランティア活動

- ・定期的活動 6団体 2個人 年間延べ活動人数212人
- ・不定期的活動 1団体 2個人 年間延べ活動人数 12人 計224人

⑮ 苦情解決

苦情件数は0件であった。

⑯ 家族会との連携

- 夏祭りや敬老会の共催
- 面会の促進
- 奉仕活動
- 家族会・職員との懇親会
- アンケート調査の実施

⑰ 高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業

特別養護老人ホームの付帯事業として、高齢者世話住宅付（以下「シルバーハウジング」という。）に生活援助員を派遣し、入居者の安否確認、生活相談を実施し、各関係機関との連携に努め、シルバーハウジング入居者の安全安心な生活の確保に努めた。

- 市営南山形住宅（G棟） 32世帯のうち、シルバーハウジング10世帯

ア 安否確認

入居者の希望を考慮して確認の曜日を定めながら、電話、訪問等で状態の把握に努めた。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施日数	21	20	21	22	21	20	22	18	22	19	19	22	247日
電 話	48	41	41	52	44	39	48	42	54	49	50	58	566回
訪 問	11	16	18	11	7	8	2	1	1	1	1	1	78回
インターホン													0回
そ の 他													0回
計	59	57	59	63	51	47	50	43	55	50	51	59	644回

イ 生活相談

毎月相談日（月8時間）を設定して、市営住宅の相談室において生活相談等を行った。生活援助員では対応できない相談については、関係機関と協議して対応した。

内 容	相 談 の 形 態					計
	電 話	訪 問	インターホン	相 談 日	そ の 他	
医療・健康	0	0	0	1	0	0件
福 祉	0	0	0	1	0	0件
家 族	0	0	0	0	0	0件
そ の 他	0	0	0	3	0	3件
計	0	0	0	5	0	5件

ウ 緊急時対応

緊急時対応は「緊急時対応マニュアル」に基づき、電話、インターホン及び訪問により速やかに状況を確認し迅速適正に対応した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実報(時間内)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
実報(時間外)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
誤報(時間内)	2	1	2	0	3	0	0	0	1	0	0	0	9件
誤報(時間外)	4	3	6	3	1	2	0	0	5	0	0	1	25件
計	6	4	8	3	4	2	0	0	6	0	0	1	34件

#### エ 認知症カフェの開催

平成26年12月から近隣との交流が少ない市営南山形住宅の入居者を対象に、「認知症カフェ」をG棟の集会室で開催した。一緒にお茶を飲むなど気軽に集まれる場所として、心待ちにしている方ができた。

開催月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
カフェ									○	○	○	○	4回
参加人数									7	6	8	8	29人

第1回開催日 12月19日（クリスマス カフェ）

第2回開催日 1月20日（お正月 カフェ）

第3回開催日 2月16日（バレンタイン カフェ）

第4回開催日 3月11日（ひなまつり カフェ）

#### オ 一時的家事援助

市営南山形住宅における家事援助はなかった。

#### カ 関係機関との連携

長寿支援課には、毎月実績報告を行い、生活状況や介護の状態の悪化など困難なケースが発生した場合は、連携を図り対応した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
包括支援センター	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2件
サービス業者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
地域関係者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
長寿支援課	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
管理住宅課	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
計	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2件

(2) 菅沢荘ショートステイ（短期入所生活介護事業）

稼働率は79.4%～101%で推移した。月により変動が激しかった。平成25年度の平均稼働率は90.1%で、平成26年度は89.4%と昨年度より若干実績を下げた。実績のわりには収入が伸びず、介護度の低い利用者が多かったことが要因と思われる。送迎数は、月平均113件であり平成25年度の118件より若干少なかった。苦情件数は、0件であった。

① 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ人数	561人	532人	528人	628人	558人	509人	572人	504人	492人	568人	489人	593人	6,534人
稼働率	93.5%	85.8%	88.0%	101.0%	90.0%	84.8%	92.2%	84.0%	79.4%	91.6%	87.3%	95.6%	89.4%

② リハビリテーション

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
評価	5	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	8	0.7
個別	1	1	3	4	9	12	7	8	5	38	36	36	160	13.3
運動療法	182	218	192	137	216	174	204	152	150	183	187	211	2,206	183.8
福祉用具	2	2	1	0	0	1	0	0	0	2	1	1	10	0.8
その他	1	0	0	0	0	2	0	1	2	1	1	1	9	0.8
計	191	222	197	141	225	189	211	161	157	225	225	249	2,393	199.4

(3) 菅沢デイサービスセンター 通常型・認知症型（通所介護事業）

通常型は平均稼働率79.2%であり、平成25年度の79.4%を若干下回った。新規利用者より老人保健施設・小規模特別養護老人ホーム、小規模多機能施設等への入所、入院や死亡者が多かったこと、ショートステイ利用併用者が多かったことが要因と思われる。認知症型の平均稼働率は61.1%で、前年度の51.3%を上回った。

① 利用状況

登録者 通常型：70名（うち予防23名） 認知症型：22名 配食サービス：13名

（平成27年3月31日現在）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	1日平均
平日通常型 （うち予防）	405 (134)	384 (129)	406 (116)	413 (104)	397 (106)	383 (94)	424 (98)	338 (82)	409 (100)	326 (93)	371 (99)	457 (107)	4,713 (1,262)	392.8 (105.2)	19.0 (5.1)
平日認知症型	112	102	119	125	117	126	138	110	133	110	127	151	1,470	122.5	5.9
祝日通常型 （うち予防）	14 (4)	34 (12)	0	12 (4)	0	35 (10)	20 (4)	38 (7)	20 (5)	18 (3)	17 (5)	0	208 (54)	17.3 (4.5)	16.0 (4.2)
祝日認知症型	7	12	0	8	0	14	9	17	8	9	3	0	87	7.3	6.7
休日認知症型	22	16	20	18	18	12	12	22	26	22	21	24	233	19.4	4.5
配食サービス	195	198	189	190	174	177	174	132	161	155	154	189	2,088	174.0	9.0

② 選択レクリエーションを行い、機能訓練指導員が個別及び集団の機能訓練を実施した。

③ 健康管理

視診、血圧・体温測定、体重測定、服薬の管理などによる利用者の健康管理と健康指導を行った。

④ 家族との連携

連絡帳及び送迎時の情報交換を通して家族との連携を密にし、信頼関係の形成に努めた。

⑤ 関係機関との連携

居宅介護支援事業所・地域包括支援センターとの連携を密にして適切なサービスの提供に努めた。また、たよりの発行や空き情報の提供にも努めた。

⑥ 栄養管理

利用者の嗜好を大切にしながら、季節の行事食を折り混ぜて満足感の得られる食事の提供に努めた。

- ・季節に合わせたお祝い膳
- ・家族を招いての芋煮会の実施

⑦ 災害訓練

菅沢荘と合同で災害訓練を定期的に実施した。

⑧ 主な活動

4月	観桜会, 誕生会	10月	芋煮会, 誕生会, 紅葉狩り
5月	西公園足湯, 誕生会, 運動会	11月	誕生会, 外食会(喫茶)
6月	外食会(回転寿司), 誕生会	12月	忘年会, 誕生会, クリスマス会 介護予防者の野外活動
7月	あじさい見学(あじさい寺), 誕生会	1月	初詣, 誕生会
8月	カラオケ大会, 誕生会	2月	豆まき, 誕生会
9月	外食会(回転寿司), 誕生会	3月	レクリエーション, ショッピング

⑨ 苦情解決

- ・苦情件数は0件であった。

(4) 山形西部地域包括支援センター

社会福祉士1名, 看護師1名, 主任介護支援専門員2名の4名体制で業務にあたった。職員4名が, 主たる業務である介護予防プランの作成や圏域内ネットワーク作り, 権利擁護等に取り組んだ。12月より菅沢荘と共同で, 南山形市営住宅において認知症カフェを月1回開催した。

介護予防プランの作成件数については概ね安定してきた。市役所・医師・サービス事業所・利用者・家族・圏域内ケアマネージャー等の圏域内ネットワークの構築については, 試行錯誤しながら取り組み, 圏域内ネットワーク連絡会の運営にも努めた。西山形地区でのお茶飲みサロンや大曾根さわやか荘・黒沢いこい荘での出前相談も定着してきた。

① 総合相談支援業務

ア 相談関係

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規相談件数	34	41	20	22	27	28	24	12	13	23	21	23	288件
連絡調整件数	362	370	426	329	386	382	435	382	387	391	367	463	4,680件
実態把握件数	21	30	21	21	33	27	26	19	15	32	31	26	302件

イ 介護予防の講話等

- 地域のサロン（16回）
- はつらつ生活出前相談開催  
黒沢いこい荘会場（12回）、大曾根さわやか荘会場（12回）
- 地域の福祉協力員民生委員等研修会（23回）
- 認知症サポーター研修（3回）

ウ 地域との連携

- 包括支援センターネットワーク連絡会開催（6回）
- 民生児童委員定例会参加（10回）／個別情報交換会（14回）
- グループホーム／小規模多機能運営推進会議（12回）
- 圏域内施設地域交流会参加（3回）
- 敬老会（1回）／文化祭（1回）
- 介護者サロンいっぶぐ会（10回）
- 認知症カフェ（4回）

エ 広報活動

- 包括支援センターだよりの発行（4回）

② 権利擁護業務

- 成年後見制度等への対応（2件）
- 高齢者虐待等への対応（2件）
- 消費者被害対応（0件）
- 関係機関との情報交換会（1回）

③ 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

- 居宅介護支援事業所連絡会開催（4回）／幹事会（4回）
- 介護支援専門員等への個別支援（9件）
- 地域ケア会議（2回）

④ 介護予防ケアマネジメント業務等

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
二次予防者数	14	13	9	11	10	9	12	7	8	8	7	9	117件
予防給付者数	170	170	170	167	165	169	170	177	174	166	165	158	2,021件
(内)委託者数	47	47	47	45	43	46	45	46	46	46	44	44	546件
認定調査件数	15	11	7	11	14	9	5	4	15	7	7	13	118件
住宅改修件数	1	0	1	0	1	1	1	2	0	1	0	1	9件

⑤ 苦情解決

- 苦情件数は0件であった。

(5) 居宅介護支援事業所すげさわ

介護支援専門員4名体制で居宅介護支援事業を行い、サービス提供事業所と連携を図り契約者のニーズに沿った適切なケアプランの作成に努めた。請求件数の月平均は、予防委託を含め134.0件であった。平成25年度の請求件数の月平均が138.5件であったので、実績を若干下げた。

• ケアプラン請求

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護件数	136	125	134	134	135	128	127	129	128	127	128	127	1,558件
予防件数	4	4	4	3.5	3.5	3.5	4.5	4.5	5	5.5	5	4.5	51.5件
合計	140	129	138	137.5	138.5	131.5	131.5	133.5	133	132.5	133	131.5	1,609.5件

• 苦情解決

苦情件数は0件であった。

#### IV 養護老人ホームあたご荘

安全・安心な生活の実現に向けた介護予防のための機能訓練や夜間災害に備えるための召集訓練を実施した。介護予防事業としては、リハビリ体操のほか、紙風船リレー・かるた大会等の昔遊び、民謡・華道や写真などのクラブ活動、山形ぐるり旅（荘内ウォーキング）、歩けない方々を対象としたカップスの演奏活動を行った。そして、共催行事の夏祭りや端午の節句・節分・雛祭りなど伝統行事では、趣向を凝らしたゲームや新たなアトラクションを盛り込み開催したところ、入所者及び地域住民の方々からも大変好評であった。

また、歯の健康維持と増進及び適合した義歯装着等による自立度の向上を図るため、新たに訪問歯科診療を実施した。感染症対策として、インフルエンザは、手洗い・うがい・マスク着用・換気の徹底及び面会者の入室制限等を行うとともに、ノロウイルスは嘔吐物処理手順の研修を反復して実施し蔓延防止に努めた。

##### (1) 入所者の状況

###### ① 入退所

(平成27年3月31日現在)

定員	平成25年度末 在籍者	年度中の増減			平成26年度末 在籍者
		入所	退所	増減	
100人	84人	12人	13人	△1人	83人(男21 女62)

###### ア 入所前の状況

事由/性別	男性	女性	計
他施設・病院	2	4	6人
自宅	0	6	6人
計	2	10	12人

###### イ 退所の状況

事由/性別	男性	女性	計
他施設入所等	3	4	7人
死亡	1	5	6人
計	4	9	13人

###### ② 在所期間

(平成27年3月31日現在)

性別/期間	～1年	1～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20～24年	計	平均期間
男	2	13	1	4	1	0	21人	5年7か月
女	10	30	14	5	1	2	62人	5年4か月
計	12	43	15	9	2	2	83人	5年5か月

※最長在籍21年6か月

###### ③ 年齢構成

(平成27年3月31日現在)

性別/年齢	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90～94歳	95歳以上	計	平均年齢
男	2	6	4	6	2	1	0	21人	78.2歳
女	1	10	10	12	16	12	1	62人	83.1歳
計	3	16	14	18	18	13	1	83人	81.9歳

※最年長者100歳

④ 委託機関 (平成27年3月31日現在)

委託機関(枠)	男	女	計	委託機関(枠)	男	女	計
山形市(86)	19	57	76人	山辺町(4)	0	1	1人
天童市(3)	1	2	3人	中山町(3)	0	0	0人
東根市(2)	0	2	2人	河北町(1)	0	0	0人
寒河江市(1)	1	0	1人	計(100)	21	62	83人

※中山町は山形市に入所枠3名分を融通している。

⑤ 要支援・要介護の状況 (平成27年3月31日現在)

介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
人数	6	8	16	15	3	4	2	54人

⑥ あたご荘外部サービス利用型特定施設契約者 (平成27年3月31日現在)

介護度	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
人数	1	2	7	13	2	4	1	30人

⑦ 外部サービス利用状況 (平成27年3月31日現在)

外部サービス	訪問介護	通所介護	訪問入浴	福祉用具貸与	訪問リハビリ	計
利用者数	23	8	5	19	1	56人

⑧ 老人一時入所利用状況 (平成27年3月31日現在)

世帯区分	入所実人員	入所延日数
生活保護	2	284
その他	5	73
計	7人	357日

⑨ 無年金者 8人

⑩ 障がい者 25人

ア 身体障がい者 10人 イ 精神障がい者 12人 ウ 知的障がい者 3人

⑪ しらゆき会 (山形大学医学部への献体) 入会者 2人

⑫ 面会状況 941人 (月平均78人)

(2) 援助活動

① 主な行事等

4月	観桜鑑賞旅行 (西村山方面)	10月	県養護老人ホーム芸能祭 日帰り旅行 (仙台方面)
5月	端午の節句フェスタ (甲冑・寸劇) 荘長杯輪投げ大会	11月	もみじ茶会 (石行寺) 防災訓練 (夜間訓練)
6月	県養護老人ホーム輪投げ大会 防災訓練	12月	クリスマス行事 (キャンドル点灯式)
7月	日帰り旅行 (置賜方面)	1月	新年行事 (安全健康祈願・尺八) 新春カラオケ大会
8月	夏祭り (妖怪ウォッチ・嵐ガッツ) 教養講話会	2月	節分フェスタ (豆まき・的当て・ 鬼輪投げ・カップス)
9月	敬老祝賀会 (似顔絵・マジック) 防災訓練	3月	お雛さまフェスタ (紙風船リレー・ 手話)・防災訓練

※歴史探訪・買物ツアー (4, 5, 6, 10, 11月), 街なか探訪 (7, 10月)

② クラブ活動等

クラブ名	華道	民謡	書道	カメラ	大人の塗り絵	昔語りの会	映写会	紙芝居
回数	4回	11回	5回	14回	8回	12回	11回	5回

(3) 食 事

季節を感じ取れ、「やまがた」の特徴を生かした変化のある献立にするとともに、入所者の重度化に伴う嚥下機能の低下に対応した食事を提供した。

- ① 選択食 週2回実施
- ② お祝い膳 新年祝賀会、岩波地区祭り、敬老祝賀会
- ③ 季節献立 ぼたもち、寿司、芋煮会、クリスマスメニュー
- ④ 調理活動 笹巻き作り、干し柿作り
- ⑤ 創作料理 鏡もち料理（茶わん蒸し）
- ⑥ 食事の委員会を開催し、献立の検討及び新メニュー等について検討した。
- ⑦ アンケートを実施し、満足度の把握及び意見・要望を聴取した。
- ⑧ 食事形態

食事形態	一 般 食					特 別 食	
	普通食	全 粥	刻 み 食	極 刻 み	ミキサー食	減 塩 食	糖 尿 食
主 食	44人	41人	-	-	1人	5人	7人
副 食	35人	-	36人	14人	1人		

(4) 職員研修

職員のスキルアップ及び入所者へのサービス向上を図るため、職員研修を実施した。

- ① 感染症対策実技研修（嘔吐物処理手順の確認） 18回
- ② 介助業務（移動・移乗・体位交換、排泄介助、入浴介助、食事介助）の基本 9回
- ③ 「接遇」実技指導（接遇（言葉遣い等）のポイント） 2回
- ④ 個人情報保護について（個人情報保護法の基本的考え方、問題点確認） 2回
- ⑤ 救命救急「AED」実践（適切な「AED」の使い方） 1回
- ⑥ 水分補給サインと留意点 1回

(5) 健康及び衛生管理

- ① 往 診 内 科 月2回 精神科 月2回 皮膚科 月1回  
整形外科 月1回 訪問歯科 毎週木曜日
- ② 健康診断 年2回実施 5月（総合健診）、12月（血液、尿検査）
- ③ インフルエンザ予防接種を実施した。
- ④ 肺炎球菌予防接種を実施した。
- ⑤ 機能訓練 毎朝リハビリ体操を実施した。
- ⑥ 口腔ケア 食後に実施した。（介助者のみ）
- ⑦ 体重測定 毎月実施
- ⑧ 血圧測定 毎月実施
- ⑨ 感染症対策委員会を開催し、感染症対策の周知徹底に努めるとともに嘔吐物処理の実技を指導した。

## ⑩ 入院状況

(平成27年3月31日現在)

	内科	外科	循環器科	精神科	その他	計
延べ人数	14	2	0	14	5	35人

## (6) 災害及び事故防止対策

## ① 防災訓練

ア 土砂災害想定 6月10日

イ 火災想定（町内会及び近隣施設等合同） 9月10日

ウ 夜間召集 11月20日

エ 火災想定（処方箋及び個人情報ファイル持出訓練） 3月17日

② 村山地区特別養護老人ホーム災害時施設相互応援協定に基づいた防災訓練 3月11日

③ 安全点検 毎月点検し危険箇所を改善した。

④ 防災委員会 訓練内容を検討・実施するとともに課題の改善を図った。

⑤ リスクマネジメント委員会 毎月実施し、事故防止対策を周知した。

(7) 荘長と語る会 7回実施（通りごと開催）

(8) アンケートの実施 2回実施（食事・職員対応、建物施設管理）

(9) 苦情 なし

(10) 実習生受け入れ3人

東北文教大学短期大学部人間福祉学科 2人（6月13日～6月20日）

東北芸術工科大学 1人（9月1日～9月5日）

## V ヘルパーステーションあたご

利用者の心身の状態把握と感染症予防に配慮し、排泄介助、入浴介助、口腔ケア、食事介助等を実施し、施設での自立した生活ができるよう援助に努めた。

また、あたご荘職員との合同で研修を実施し、職員のスキルアップを図るとともにサービスの向上に努めた。

## ・要介護者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
排泄介助	19	23	21	21	22	24	23	23	21	21	20	20	258人
入浴介助	14	17	16	15	16	17	18	18	17	17	14	14	193人
口腔ケア	8	8	8	8	7	7	7	6	6	6	6	6	83人
食事介助	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	14人
計	43	50	46	45	46	49	49	48	45	45	41	41	548人

## ・要支援者

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入浴介助	3	2	2	2	2	3	2	3	3	3	3	3	31人

## VI たきやま地域包括支援センター

滝山地区の高齢者が住み慣れた地域で、尊厳あるその人らしい生活が継続できるよう、総合相談・支援，権利擁護，包括的・継続的ケアマネジメント支援といった機能を担い，この地区を圏域として事業を実施した。また，民生委員定例会議，地区社会福祉協議会幹事会，地域団体会議への参加及び包括支援センター主催会議，介護支援専門員連絡会を開催し，情報・相談が寄せられやすい環境を創るとともに，地域ケア会議を開催し，関係者と情報共有を図り，個別課題の解決に努めた。

介護予防対策事業として，介護予防の集い，いきいきサロンでの健康講話・運動指導を実施した。そして，包括支援センターだより「あんしん定期便」を発行し，虐待予防・閉じこもり予防等について周知，啓発した。

また，新たに，利用者家族等からのアンケート調査を実施し，満足度の把握及び意見・要望を聴取した。

### ① 総合相談支援業務

#### ア 相談関係

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規相談件数	39	25	31	16	20	25	20	20	19	15	23	19	272件
連絡調整件数	556	603	540	635	578	553	632	484	611	498	575	503	6,768件
実態把握件数	28	21	16	16	13	15	19	23	9	16	15	11	202件

#### イ 介護予防

- ・介護予防の集い（6回）
- ・いきいきサロン等（12回）
- ・認知症サポーター養成講座（3回）

#### ウ 地域との連携

- ・包括支援センターネットワーク連絡会（2回）
- ・民生委員定例会等（8回）
- ・福祉協力員大会・研修会（2回）
- ・グループホーム運営推進会議（5回）
- ・滝山地区福祉推進会議（1回）
- ・滝山地区社会福祉協議会幹事会（4回）
- ・小規模多機能型居宅介護・地域密着型介護老人福祉施設運営推進会議（22回）
- ・その他の地域関係者・団体等が主催する会議等（8回）
- ・地域ケア会議（2回）
- ・花はな会（10回）

#### エ 広報活動

- ・包括支援センターだより「あんしん定期便」の発行（5回）

### ② 包括的・継続的ケアマネジメント業務

- ・滝山地区介護支援専門員連絡会（2回）
- ・介護支援専門員への個別支援（8回）

③ 介護予防ケアマネジメント業務

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
二次予防事業利用者数	14	11	16	15	16	13	10	15	18	16	14	10	168件
予 防 給 付 数	176	175	177	176	173	177	182	181	179	185	184	184	2,149件
(内)委 託 数	61	65	64	63	66	68	73	72	68	67	68	68	803件
認 定 調 査 件 数	6	10	16	14	10	18	5	5	13	5	10	4	116件
住 宅 改 修 件 数	0	1	1	0	0	1	2	0	0	0	1	0	6件

## Ⅶ 居宅介護支援事業所あたご荘

利用者のニーズに応じた適正なケアプランを作成し、自立した生活を送ることができるようモニタリングを行うとともに、状態に変化があった場合にはサービス担当者会議を開きケアプランを変更する等、在宅生活を継続できるよう支援に努めた。対応が困難なケースに関しては、病院及び地域包括支援センターと連携して課題の解決を図った。

また、新たに、利用者家族等からのアンケート調査を実施し、満足度の把握及び意見・要望を聴取した。

• ケアプラン請求

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護件数	40	39	41	43	43	47	43	39	37	37	34	37	480件
予防件数	7	7	7	7	7	7	8	9	11	11	12	12	105件
合計件数	47	46	48	50	50	54	51	48	48	48	46	49	585件

• 更新調査

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
調査件数	4	0	6	5	0	2	9	8	5	1	10	5	55件

## VIII 銅町デイサービスセンター

稼働率が79.6%と目標の85%に届かなかったものの前年度より6.8%上昇した。平日の稼働率は81.6%、平均利用者数は24.6人で、全体的に稼働率が伸びており、目標値に近づきつつある。これからも継続して居宅介護支援事業所及び地域包括支援センターと連携を図り、利用者の新規獲得に努めたい。

サービス面では、利用者個別に通所介護計画書、介護予防通所介護計画書を作成し、利用者の利用目的を達成することができた。また、楽しく過ごして頂けることを目指してサービスの提供に努めた。

### ① 利用状況 (平成27年3月31日現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均	1日平均
平日	463	450	489	488	497	504	556	472	557	485	486	564	6,011	500.9人	24.6人
日曜日	66	72	106	93	120	95	86	110	89	85	95	121	1,138	94.8人	22.3人
祝日	24	45	0	22	0	46	23	51	24	25	26	0	286	23.8人	19.1人
合計	553	567	595	603	617	645	665	633	670	595	607	685	7,435	619.6人	24.0人

### ② 利用者拡大対策

- ア 各居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携強化
- イ シルバーハウジング入居者の利用開拓

### ③ ケアプランに添ったサービスの提供

ケアプランに基づいた通所介護計画書、介護予防通所計画書を作成し、利用目的を達成できるよう努めた。

### ④ 健康管理

- ア 視診・血圧・体温の測定、服薬の管理等による利用者の健康管理と健康指導を行った。また、必要に応じて医師への報告を行った。
- イ レジオネラ菌検査（年2回）及び残留塩素濃度の測定管理の実施により安全な浴槽水の確保に努めた。

### ⑤ 機能訓練

リハビリ委員会を中心に個別、全体を含め、身体機能の維持回復に努めた。  
リハビリ体操は毎日2回（午前・午後）実施し、更に転倒予防体操の内容を変更して実施した。

### ⑥ 家族との連携

連絡帳の活用及び送迎時の情報交換等を通し、家族との連携を密にし、信頼関係の形成に努めた。

### ⑦ 関係機関との連携

各居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの連携を密にし、適切なサービスの提供に努めた。

### ⑧ 栄養管理

毎月給食委員会を開催し、家庭の味を大切に、食べる楽しみと季節の変化を感じられる食事の提供に努めた。

⑨ 主な活動

- ア 誕生会（毎月第4週を基本に1週間）
- イ 季節の行事（節分・ひなまつり・観桜会・紅葉ドライブ・クリスマス等）
- ウ 全体レクリエーション（ボランティアの出し物・カラオケ・パターゴルフ・頭の体操・すき焼きジャンケンゲーム等）
- エ 個人レクリエーション（将棋・トランプ・オセロ・ちぎり絵・書道・創作活動等）

⑩ 利用者家族及び地域への広報

広報委員会で内容を検討し、センターだより「あかしや」を毎月、「せせらぎ」を年1回発行した。

⑪ 地域交流

- ア 地域交流室の利用                      ボランティア，慰問団の控え室等として常時利用
- イ 地域のボランティア活動            48回
- ウ 地域の慰問団                          60回
- エ 介護体験学習                          10名

⑫ 災害訓練

- ア 避難訓練，消火訓練，通報訓練，住宅との合同訓練及び消防用設備等の点検（年2回）
- イ 緊急時の体制確立

⑬ 職員研修

- ア 外部研修    12件    12名
- イ 内部研修    12件    130名

⑭ 苦情解決の取り組み

- ア 「ご意見箱」の設置
- イ センターだよりによる苦情受付体制の周知
- ウ 苦情    2件（すべて解決）
  - ・職員に関すること                      0件
  - ・その他                                      2件

⑮ 高齢者世話付住宅生活援助員派遣事業

通所介護事業の付帯事業として生活援助員を派遣し、高齢者世話付住宅（以下「シルバーハウジング」という。）の入居者の安否確認，生活相談を実施し，各関係機関との連携に努め，シルバーハウジング入居者の安全安心な生活の確保に努めた。

- ・市営銅町住宅    118世帯のうち，シルバーハウジング36世帯
- ・市営薬師町住宅    60世帯のうち，シルバーハウジング18世帯

ア 安否確認

平日は毎日実施を基本に，利用者の希望を考慮して確認の曜日を決めながら，インターホン，訪問等で状態の把握に努めた。

〈銅町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施日数	21	20	21	22	21	20	22	18	21	19	19	22	246日
インターホン	314	313	325	342	322	305	351	276	378	325	302	353	3,906回
訪 問	5	0	0	9	1	18	3	0	1	0	0	0	37回
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0回
計	319	313	325	351	323	323	354	276	379	325	302	353	3,943回

〈薬師町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施日数	21	20	21	22	21	20	22	18	21	19	19	22	246日
インターホン	101	100	101	128	122	116	125	103	131	121	110	135	1,393回
訪 問	26	12	9	19	6	16	9	11	8	7	5	9	137回
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1回
計	127	112	110	147	128	132	134	114	139	128	115	145	1,531回

イ 生活相談

毎月相談日（月8時間）を設定して、各市営住宅の相談室において生活相談等を行った。生活援助員では対応できない相談内容については、関係機関と協議して対応した。

〈銅町住宅〉

内 容	相 談 の 形 態				計
	インターホン	訪 問	相 談 日	そ の 他	
医療・健康	5	4	0	2	11件
福 社	0	0	1	0	1件
家 族	0	0	0	1	1件
そ の 他	2	4	5	4	15件
計	7	8	6	7	28件

〈薬師町住宅〉

内 容	相 談 の 形 態				計
	インターホン	訪 問	相 談 日	そ の 他	
医療・健康	0	0	5	0	5件
福 社	0	0	2	0	2件
家 族	0	0	1	0	1件
そ の 他	3	1	8	1	13件
計	3	1	16	1	21件

ウ 緊急時対応

緊急時対応は「緊急時対応マニュアル」に基づき、インターホン、電話及び訪問により速やかに状況を確認し迅速適正に対応した。夜間及び休日の緊急時対応は、各シルバーハウジングとも警備会社に通報を委託し、連絡を受けた職員が迅速に対応した。

〈銅町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実報(時間内)	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2件
実報(時間外)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
誤報(時間内)	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	0	3件
誤報(時間外)	1	0	1	1	0	1	1	1	1	1	0	0	8件
計	1	0	1	3	1	1	1	2	2	1	0	0	13件

〈薬師町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実報(時間内)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
実報(時間外)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0件
誤報(時間内)	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2件
誤報(時間外)	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	4件
計	1	0	1	2	1	1	0	0	0	0	0	0	6件

エ 一時的家事援助

〈銅町住宅〉

- ・テレビの調整, 書類の記入, 車椅子の空気詰め, 蛍光灯グローランプの買い物, じょうろへの水汲み, 玄関鍵の調整, 蛍光灯交換, エアコンフィルター掃除, 補聴器の電池交換, 水道調整, 家具調整

〈薬師町住宅〉

- ・玄関電球や蛍光灯の買い物・交換, 埋め立てゴミ袋の買い物, 手足の爪きり, 領収書コピー

オ 関係機関との連携

長寿支援課には, 毎月入退院者及び死亡者等の状況報告を行い, 生活状況や介護状況の悪化など困難なケースが発生した場合は, 連携を図り対応した。

〈銅町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
包括支援センター	0	0	1	1	0	2	0	0	0	0	1	0	5件
サービス業者	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2件
地域関係者	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2件
長寿支援課	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4件
管理住宅課	2	2	0	0	0	0	1	1	1	0	1	0	8件
その他	0	0	0	2	0	0	0	0	0	3	1	0	6件
計	7	2	1	4	0	2	1	2	1	3	4	0	27件

〈薬師町住宅〉

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
包括支援センター	3	0	1	1	0	0	0	0	2	0	0	0	7件
サービス業者	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1件
地域関係者	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4件
長寿支援課	2	3	2	2	0	2	0	1	3	0	2	0	17件
管理住宅課	0	0	0	1	0	0	1	0	1	2	1	0	6件
その他	1	1	3	2	0	1	1	0	2	0	2	0	13件
計	6	5	6	6	0	3	2	1	12	2	5	0	48件

## IX 居宅介護支援事業所どうまち

介護保険制度の中核を担う事業として、専任1名、兼任1名の計2名の介護支援専門員を配置し、包括支援センター、サービス提供事業者、関係機関との連携に努め、自立に向けた在宅生活の継続を支援した。又、公正中立な立場に立ち、契約者のニーズに沿った適切なケアプランの作成を行い、請求件数の向上を図った。

• ケアプラン請求

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護件数	34	34	33	33	38	36	40	38	39	40	38	39	442件
予防件数	6	7	7	7	8	9	8	8	8	8	8	7	91件
合計件数	40	41	40	40	46	45	48	46	47	48	46	46	533件

• 更新調査

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
調査件数	2	3	7	2	4	0	1	2	5	4	4	1	35件